

会議の概要（議事録）

会議の名称	(番号) 1-49	第4回墨田区基本構想審議会		
開催日時	令和7年2月20日(木) 19:00から21:00まで			
開催場所	131 会議室			
出席者数	【委員】加藤久和(会長)、上野武(副会長)、阿部貴明、角山剛、駒村康平、鈴木みゆき、山本俊哉、老田勝、井上佳洋、森山育子、佐久間之、島田泰子、鎌形由美子、庄司道子、星野喜生、西村孝幸、平林秀敏、山室学、須藤正、杉山達雄、金谷直政、岸成行、相澤純一、木村優太、佐藤祥子、真鍋文朗、山口亮 (計27名) 【事務局】岩佐企画経営室長、楠政策担当課長、政策担当主査(矢野、原、田部井)、政策担当主事(田中)			
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる) 部分公開(部分傍聴できる) 非公開(傍聴できない)	傍聴者数	8人	
議題	墨田区基本構想(案)について			
配付資料	1. 次第 2. 墨田区基本構想(案)【資料1】 3. 第3回審議会で寄せられた意見の対応状況等【資料2】 4. 将来像について【資料3】 5. 特別区基本構想における将来像一覧【資料4】			
会議概要	1 墨田区基本構想(案)について (1) 第1章の記載内容について 事務局から資料1及び2のうち、第1章部分について説明を行った。 以下、質疑応答 (加藤会長) 5ページの、この3つのまちづくりの基本理念が議論の中心となる。それも踏まえて、それ以外も含め、今までの事務局からの説明に関するご質問や、もしくは感想などでも構わないので、委員の皆様方からご意見を頂戴したい。ご意見のある方は挙手の上、ご発言をいただきたい。			

(佐久間委員)

3ページの「はじめに」の2行目の「花火大会や、大相撲など 江戸から続く歴史や文化」と表記されているところ、大相撲の次に北斎というキーワードを入れていただきたい。本区を訪れてみたい目玉として、世界的な評価が高い北斎というキーワードを是非この中に入れていただければと思う。

(事務局)

次回に向けて、反映させる方向で検討したいと思う。

(木村委員)

各論ではなく、全体的な横軸の話。どちらかというと、この基本構想は墨田区に住んでいる人と墨田区に働いている人の視点で書かれていると感じている。

私は最初の方で言っていたかもしれないが、墨田区はHub的な機能を持ててのではないかと思っている。それは例えば文化の視点でも、北斎というコンテンツを起点に、住んでいない人も含めて、この墨田区に来て、そこに集まって、さらにそこから全国に広げていくとか、産業ももっとオフィスビルができてもいいのではないかなと個人的には思う。工場がなくなるとマンションが建ってしまう。何でオフィスビルが立ち上がらないのか。そこら辺は企業誘致などが、あまり横軸でやられていないのかもしれないと思っている。そういったオフィスビルがたくさんできあがれば、人がどんどん集まって、そこで働いたり、セミナーやったり、教育やったりなどできるし、学校も、IUできたけども、そういった意味で何か住んでいる人の視点とかでなく、区外から集まって、そこからもっと墨田区から広げていこうみたいな、そういう趣旨の文章があるといいと感じた。

(事務局)

私どもとしては、おそらく住んでいる人が一番中心になってくると思いつつも、一方でおっしゃられる通り、働くだけでなく、活動する人も含めて、一緒にまちづくりというようなところで関わっていただくことが大切であると思っている。

そのため、1ページ目のところで、「基本構想とは」というふうにしているが、その中では、区民や団体、事業者などという言い方になっているが、墨田区に関わるすべての人々というのは、決して暮らしている人だけではなくて、関わる人すべての人々と一緒に、こういうまちを創っていきたいというところを表現したいと思っている。どこのところで、そういった思いをさらにうまく表現できるかというのは、次回に向けて少し検討させていただければと思う。

(鎌形委員)

キャッチフレーズの中には、安心して暮らせるまちというのが出てくるが、いろいろなところで、親に勧められたと言って、学生が下宿ではないが、マンションに住むのにすみだを選んだとかいう話をよく聞くが、それはコロナの時の対応が、全国的に知られたということが大きいと思う。安心して暮らせてこそ、いろいろなことがここに書いてあるような、産業とか文化とか、安心してそれに邁進できるとい

うところがあると思うので、コロナを入れてくれというのではなくて、安心して住める環境にも力を入れているということを少し強調したほうがいいと感じた。

（事務局）

「はじめに」のところというよりも、事務局のイメージとしては、5ページのまちづくりの基本理念の「人」が主役であること」というところに、今おっしゃっていただいた思いというか、「人」が主役である」というのは、その人が安心して暮らせるということにもつながることと思っている。下から2行目のところで、「精神的に豊かに暮らすことができるよう」という表現にしてしまっているが、ここら辺の表現を付け足すではないが、今いただいた、安心して暮らせるというような要素も込めて、すべての分野で共通して、人が安心して、このすみだというまちで、自分らしく精神的に豊かに暮らせるということを大事にしていくという思いを表現したい。次回に向けて検討する。

（相澤委員）

人のつながりを示す部分の枕詞として、災害や戦災という言葉を使っている部分が、3ページと5ページ目にあるが、戦災や災害がなくても、人とのつながりはあったと思うので、とても違和感がある。

逆に、戦災や災害がなかったら、つながりがなかったのかというのはないと思うので、下町文化やものづくりの文化があったからこそ、人のつながりができていると思う。

あと、百年前の話をいつまで書いているのかというのがあって、近隣の文京区や台東区の基本構想を見たが、戦災とかについては書いてなかった。少し比べてみてはどうかと思う。

（事務局）

おっしゃられるとおり、決してそういった災害があったからつながりが生まれたということではないと思っている。ただそういったものを乗り越える時に、つながりが強くなった一面はあると思っている。今いただいたご意見を踏まえて、文章の並びであるとか整理というのは考えてみたい。

一方で、戦災の話について、震災の話というのはまた違うのかもしれないが、関東大震災にしても、戦災にしても、どちらも墨田区が最も大きな被害が出たエリアであるというところは、やはり台東区や文京区とは違うと思っている。そのまちの歴史を大切にこそ、次の未来につながっていくという部分があるのではないかと考えているので、ご意見としては受けとめさせていただきつつも、ここはやはり載せたいと考えている。

（阿部委員）

大事なことだと思うので、念のための確認。5ページのところ、大変良い書きぶりだと思うが、最終的にまちづくりの基本理念がこれで良いということになって、基本構想が固まったときに、ここに書いてあることが、すなわちすみだの価値観。誤解を恐れず申し上げますと、この価値観に合わない人が来たり、住もうとした

りした時にどうするのかということ。それで、せっかく、こういうすみだになろうというところに、明らかにそれを良しとしない方がいることに対して、どういうふうに整理するか。３ページ目の「はじめに」の最後に、「誰一人取り残さない」という、一見すごく、素敵で綺麗だけど、この価値観で合わない人がいた時に、排除するとかというイメージになる必要は全くないが、この「誰一人取り残さない」がすごく気になって、逆のことを考える人が必ず出てきてしまいそうな気がする。

その価値観を明確にするということと、その価値観にどうしても合わない人は、どうするつもりなのかを、私たちの共通認識としてあった方がいいのではないかと。それが「誰一人取り残さない」で大丈夫かなというのが少し気になる。

（事務局）

おっしゃられるとおり、価値観に合わない人はすみだから出て行けとか、そういう話ではないことについては、おそらくこの審議会の委員の皆様もご理解いただけていると思う。

価値観として、こういうものを目指していこうという部分と、すみだは、こういうまちというところを、はっきりとお伝えするところが一つ大事なポイントだと思っている。その上で、こういう価値観を理解して、一緒にこのまちを創っていったら嬉しいというようなものになるのではないかと考えている。

十人十色というか、様々な価値観を持っている方がいるということはどうしてもある。でも、我々が目指すまちはこういうまちであって、１人でもそういう人を増やしていこうという意識を持つ。特にすみだを大切に思う人たちが行動していくことが大事なのではないか。

今 28 万 7000 人いるところから、さらに 2 万人増えて 30 万 7000 人までなったときには、違う価値観を持っている人はどうしても出てきてしまうと思う。

それでもこういう価値観を持っている人が、その中でも、少しでも多いまちを目指していこう。それを行政であり、住民の方々であり、事業者の方々であり、同意いただける方々が一緒になってやっていこうというようなところをお示しする指針というふうに事務局としては考えている。

（阿部委員）

同意いただけない方が著しく住み心地が悪いという状態にすることで、結果的にいなくなる。誰一人取り残さず、気持ち良くいてもらうことは難しい。

（加藤会長）

阿部委員のおっしゃることは確かにおっしゃるとおり。そうすると、すべての人の価値観というものを、どうまとめていくのかということになっていく。多分ここにいらっしゃる全員の委員の皆様方にとってみても、価値観違うところがあったりすると思うが、最大公約数ということではなく墨田区としてこういうような中で、一生懸命一緒にやっていこうということを申し上げていく、その基本的なところ、だから基本構想だろうというふうに思っている。価値観の話をするとき非常にまとめ方が難しくなってくる。

（阿部委員）

「誰一人取り残さない」は取った方がいいのではないかというのが、結論的な意見。

（事務局）

「誰一人取り残さない」というところが、最近の行政がよく使う言葉という部分もあって、今のご意見というのは非常に重要なものであると思っている。

今のご意見を踏まえて、この言葉の持つ意味というところを整理してきちんと定義づけできるのかということも含めて、次回までに整理して、またご提案させていただければと思う。

（鎌形委員）

「誰一人取り残さない」というのは私も削って欲しいと思う。というのは、それは違うのではないかと思うかもしれないが、災害時、誰一人残さない民生委員発というテーマで、10年間ずっと活動していた。3.11の時に、もちろん、ご自分の家が津波にかかる場所にお住まいの方だったかもしれないが、多くの民生委員は一旦津波が来る前に、静かになったときに、見守りに出かけて、あの時59人の民生委員が亡くなっている。

それもあって、民生委員協議会では、「誰一人取り残さない」というのは、あまりに強い言葉だということで、使わないことにした。少し違う話だと思うかもしれないが、私としては少し強すぎるかと思った。

（事務局）

複数の意見が出るということは我々としても、真摯に受けとめなければいけない部分でもあるので、安易に、何となく綺麗な言葉だから使うというのはやはりよろしくないと思う。ご意見を踏まえて検討させていただければと思う。

（山本委員）

基本理念が価値観というふうに議論されているが、基本的に違う。基本理念はミッションであるから、できないことを目標に掲げて、どうしていくかということ。価値観はバリュー、判断基準ということだから、ここに掲げられた「誰一人も取り残さない」という基本理念は、価値観ではない、ミッションであると理解すれば、今の議論は収束するのではないかと思うが、いかがか。

（事務局）

ミッションという部分もあるとは思うが、ただ一方で先ほどの鎌形委員からのご発言の部分では、ミッションとして掲げられることが、その価値判断というよりも、そこに縛られてしまって、判断を誤ってしまうことにもなりかねないという側面もあったりするかと思っている。

我々が目指すまちの姿があり、そこに向かって、こういうものを大切に行動していこうというところに表現されるべきものが、どのようなものであるべきなのか、それは一方向的な行政の目線ということだけでなく、またそこで働く暮らす人たち

であり、民生委員さんの方々も含めて、この表現を踏まえて、私たちが1日1日暮らしていく、動いていく、そういうふうな目線でもう1回見返してみて、適切だろうかという視点で整理をし直してみたい。

（加藤会長）

皆さん全員の合意は難しいというふうに申し上げたが、お二人の厳しいご意見があった中で、やはりこれについて少し見直しをするというような方向性で考えていく方がいいのではないかなと思うが、いかがか。

ミッションとして残すべきなのか、或いはご意見を踏まえながら、もし他の言葉に変えるのであれば、ぜひ検討し直していただきたい。

（木村委員）

別の視点で、山本先生の話で気づいたが、意味の確認をさせていただきたい。この「人」が主役であることの「人」は、個人のパーソンを指すのか、人々のピープルを指しているのか、ニュアンス的にどちらなのかと思った。よく世の中で言われるのは個人が主役になれることとか、誰もが主役になれることみたいなキャッチフレーズがあるけども、何となくこの内容を見ると、個人っぽくないというのがあって、どちらかというところと集団の文化だったり、伝統だったりとか大切にすることみたいな意味にも捉えられる。

（事務局）

「人」が主役であることというところの、前提としてというところで、こちら文章でも書かせていただいている通り、誰もが自分らしく、そして一人ひとりの違いを尊重しながら、というところで、個人というところは大切にすべきではと思っている。

ただ一方で個人を尖らせすぎることによって、他の人が何か不快に感じるというのは、それはそれで間違っていると思っていて、そういう点から言うと、人が主役というのは、ピープルというような集団としての人というところも主役であるというふうにも感じている。

なので、はっきりと、どちらかというのが難しい部分ではあるけれども、誰もがこのまちで暮らしている、活動する、働く、その時に、主役として、自分たちが主体となって行動できる、そんなまちを目指していこうという思いを込めている。

（木村委員）

あと、この主役であることというのは、すべきみたいな、あるべき論の言葉に感じるが、何か主役になれるという言葉で、CANでもいいと思う。何かそちらの方が、夢があるというか、未来系のWILLの方に近い感じがしていて、ミッションっぽく感じるのは、みんなそうであることみたいな、厳しい感じの言葉になっているからなのかなと思っている。もしかしたら主役になれるまちの方が可能性を感じて、もう少し、やんわりになるかなと思った。

（事務局）

今のご意見を踏まえて少し考えてみたい。こちらで込めさせていただいている部分では、あなた自身も主役という思いというのがある。なれると人から言っていたくというよりも、このまちを創っているのはみんな一人ひとりが主体となって、このまちを創っている。やってくれるでもないし、誰かが助けてくれるだけでもないし、みんなが主役として、このまちを創る一員として行動していこうという思いを込めたいと思っている。

それを踏まえて今のご意見も踏まえて、この文字面で合っているのかというのは考えてみたいと思う。

（西村委員）

文言の整理になるかもしれないが、３ページの「はじめに」の２段落目の「今日のまちをつくりあげてきました」、最後の行の「つくりあげていきます」というのがあって、一方で１ページの「基本構想とは」では「創り上げていく」と漢字になっているところは、あえて使い分けているのか教えていただきたい。

それから先ほど話があった５ページの「人」が主役であること、今の文章だと、「精神的に豊かに暮らすことができるよう」ということで暮らすだけになっている部分があるが、訪れる部分もあるのではないかと。暮らすという話と訪れる話を整理していく必要があるのではと思ったが、そのあたりはいかがか。

（事務局）

「つくりあげる」という部分については全体の確認がまだ取れていないので、再度確認をして、用語としての使い方、ひらがな・漢字の使い方は統一したいと思っている。ここは意図なく、こうなってしまうので、ご容赦いただきたい。

「人」が主役であることということに、暮らすだけでいいのかということについて、おっしゃられるとおり、暮らすだけではなくて、このまちにおいては、人が主役になれるということが大切であると思っている。

そういう点で見た時に、文章としてまわりくどく冗長になりすぎると、余計分りにくくなる場所もあるので、どういう表現であれば今言ったご指摘を踏まえられるかというところを整理したい。

（加藤会長）

ただ今いただいたご意見を踏まえて、改めて事務局の方で整理をし、修正すべきことは、修正をしていただければと思っている。

それでは次の議題に移らせていただければと思う。二つ目の議題は第２章分野別未来像に関する議論。前回の内容から修正されたところもあるので、まずは事務局より説明いただき、ご意見をいただければと思う。

（２）第２章の記載内容について

事務局から資料１及び２のうち、第２章部分について説明を行った。

以下、質疑応答

（加藤会長）

それでは最初に、事務局の方からお話いただいた地産地商に関して、老田委員からお考えを聞かせいただるところから始めたい。

（老田委員）

自分の考えとして、そんなに付け足すところはないとは思いつつ、確かに言葉として、もともと「地産地消」は、そのうちで作られたものを、そのうちで消費するという印象があると思うが、逆に、その言葉は世の中では意外と定着をしているので、それをダジャレというか、もじったものとして、表現の仕方として、例えば「地産地商」という字の上に、ルビを付して造語であることを表しながら、さきほど事務局が説明したような意味合いで使っているということを、アピールしてもいいかなと思っている。やはり墨田区の中でものづくり、非常に注目はされているが、ものづくりだけで解決しようとしてしまうと、結局マネタイズできなくて、商売にならなくて断念してしまうような形も結構ある。

なので、同じほどの数、やはり商業者はいるから、力を合わせて良いものをつくただけで満足ではなくて、やはり世に広めて、たくさんの方に使ってもらう。

そのためには、つくるだけではなくて、流通させるということも非常に重要なので、それをまとめて、簡単に一言で言おうとした時に「地産地商」というふうに申し上げた。

（加藤会長）

私も第1部会で、老田委員の話を聞いて、非常にいい言葉だと思ったが、いろんな受けとめ方があると思っている。

まずはこの点について、委員の皆様から何かご意見いただけないか。

（木村委員）

どうしても「地産地商」のイメージが、こういう外部環境の変化の中で、墨田区の産業が印刷業だったりとか、金属工業だったりとか、というところだけをやってしまい、工場が倒産するという現状を見ると、やはりもっと外部の技術だったりとか、企業だったりとかをもっと誘致して、その中でのシナジーを持ってくるというのが、私としては現実的だと思う。

ビジネススクール社会人大学の会社に勤めて自分自身も MBA とっているが、実際リカレント教育とかで、全く違うスキルを会得するとか、スタートアップでもっと新しいことやってこうというのが書いてあるが、スタートアップの成功率はかなり低い。現実的にかなり難しい。なので、実際どうやって変革していくかということ、やはり外部のものをもっと取り入れていくところが結構多いので、何かそういうニュアンスも加えて、「地産地商」とそのニュアンス、何か言葉のプラスがあるといい。「地産地商」は大賛成。例えばカシミヤの服をもっと区民の人も着てもいいのではと思っている。そういう「地産地商」はすごくいい。ただし「地産地商」のみがすごく目立ってしまうと、ここだけフォーカス当たってしまうので、もう一つ外のものも加えてあげると、すごくバランス良くなると思う。

(森山委員)

以前、第1部会の中で、この言葉を聞いたときに、実は観光に通ずるところがあって、例えば墨田区にはたくさんホテルがある。墨田区のホテルの中で、例えばバスルームに置いてある石鹸・ソープ、墨田区産のものがどれだけのホテルで使われているのか。例えばスリッパとか、ガウンとか、タオルとか、すみだは繊維のまちでもあるという中で、そういったものをつくっている事業者さんもある。レバントさんのように大きいホテルだと、グループ全体として大規模ロットでたくさん買った方が安いからというものもあるのかもしれないが、せっかく、すみだに観光客がたくさん訪れている中で、宿に泊まって、すみだのものを使ってもらって、この石鹸、良い石鹸だと思って、墨田区のものか、では買って帰ろうとか、それって、自分が旅行に行った時に、すごく香りの良いソープだったりとかした時に、いいもの使っているとやはり思ったりする。その感覚でいくと、できるだけ墨田区の中の事業者さんが、墨田区のことを、使える範囲の中で扱っていただけると、逆に、外に発信することになるのではないのかと、いつも思っている。

だから、できるだけお互いに良いと思うものを、やはり使い合うというようなことが、ここにも書いてある、区内外に価値を伝える好循環を生み出すのが、この「地産地商」である。内向きというよりも、区民の人たちが、このまちでつくられているものは良いもの。だからこういう形で使っているということを、口コミやいろんな形で伝えていく。狭い伝え方かもしれないが、そういう伝え方もすごく必要だという意味合いが、この言葉に私は入っていると思っている。

(金谷委員)

私も観光絡みで、「地産地商」は大事な概念だと思っている。ただ「地産地商」という言葉だと、どうしても「モノ」というところになってしまうと思う。実際、観光はサービスの部門だと思うが、海外の人が来て、いかに地域にお金を落とすかと考えると、「モノ」ももちろんそうだけでも、例えばそこで働く人とか、清掃する人とか、クリーニングとか、そういった地域経済への寄与みたいなものがあると思う。「地産地商」だと「モノ」だけだが、実際、その観光という行動が地域経済にどれだけ寄与するかということを、多分「地産地商」という言葉にしていると思うが、そうすると、どうしても「モノ」メインになってしまうので、そうでなくて、この言葉プラス、そういった「サービス」が寄与するとか、あと住まいとか、観光というのは一時的な住まい的な意味合いもあると思うので、そういったもので、地域に対して、将来的に例えば住むというとか、どういうふうに寄付するのかというのは、産業になるかどうかかわからないが、なんかそういう観光ならではの寄与ということを、少し言葉にしてみてもいいのかと思った。

(事務局)

最初木村委員の方からいただいた、外の変化をもっと取り入れていくとかというニュアンスの話について、それを入れるとすると、おそらく「価値を高め、広める」の上の「挑戦し続ける」のところ、「時代の変化を捉えながら、産業構造の転換、技術の革新に適応していくことが、産業の活力につながります」のところのそうい

うニュアンスを入れるべきかと受けとめている。ご意見は「地産地商」の文章というより、そちら側でうまく拾えないかというところを検討させていただきたい。

あと先ほど金谷委員の方からいただいた、その「地産地商」だと製品、どうしても「モノ」になるのではないかというところでは、文章の中で冒頭に書いている通り、「商品やサービスに込められた思い」という中で、決して「モノ」だけではないニュアンスを含めた表現にしたいと思っている。なので、この「地産地商」は、多分製品、商業ではなくて、製品をつなぐ商業みたいなニュアンスになっていくのかと思っている。もちろん産業だけでなく、製品も含めた「産」だと思っている。他所の「地産地消」とすみだの「地産地商」は違うみたいな雰囲気が出てくると、老田委員のおっしゃられた雰囲気が伝わって良いのではと考えている。

（加藤会長）

今まで皆さんからご意見いただいた中で、これ駄目だという話ではなくて、やはり誤解のないように、また、外とのつながりを考えながら言葉を付け足す、或いは見直しということで、この「地産地商」はせっかく部会から出たので、やめてしまうということではなくて、私としてはさらにご検討いただければなと思っている。

（阿部委員）

言葉の後ろに括弧で、この意味を簡単に表現すると良いのではないか。私の理解は、この地で生まれたものを、この地で商うことを「地産地商」と言っている。なので、この地で生まれるものは、「サービス」も生まれるし、「モノ」も生まれるし、いろんなものが生まれるが、墨田区で生まれたものを墨田区の中でお金に変えようという意味で老田さんは言っていると、私は理解しているので、他に適切な言葉があれば、それはそれでいいが、「地産地商」と言った後に、括弧でも、なるべく短く、「地産地商」の意味を表現すれば、少なくともミスプリだとは思われないのではないか。

（加藤会長）

ぜひ検討いただければと思う。

それでは、その他の第2章に関することで、赤字が前回と変わったところだと思うが、これについてご意見をお願いしたい。

（金谷委員）

22ページの「まちづくり・都市基盤」の「災害が起きても、人々のいのちが守られ」のところで、復元力が高いという言葉から、説明に置き換えたということだが、その時に、復元力というのは必ずしも命だけではなくて、産業のことかというとBCPとか、新しく産業が立ち直るとか、壊れないとか、そういったことは結構、大事なテーマになってきていると思うので、命が守られるだけだと、どうしても例えば建築の分野だけだと最低基準でしかない。そうでなくて、やはり経済がその後も続くというニュアンス、例えばその建物が守られるはあまりにも限定的になるので、産業の基盤が守られる的なニュアンスが入ったほうがいいと思う。

（事務局）

まさに、私どもとしても「いのちが守られ」だけというよりも、どちらかという
と復元力のところに込めたのは、速やかに社会活動を再開することができるという
ような表現にしている。ただ今、金谷委員がおっしゃられたとおり、継続というか、
災害が起きても、続きながら再開していくという、その段階が漏れているのでは
ないかというご指摘かとも受けとめたので、ご指摘を踏まえた表現の検討を改めて
させていただきたい。

（佐久間委員）

16 ページの「福祉」の3つある黒いダイヤの真ん中に「違いを超える」という
のがある。これは違いがあっても、地域の中で支え合っていこうということだと思
うが、その超えるという言葉、これもこれでいいと思うが、違い自体をもう少し肯
定的に捉えられる言葉として、例えば違いを尊重するとか、そのような表現もどう
なのかと思った。

（事務局）

第2部会の議論の中で、特性を持つ人であっても、違いがある人のことに実は興
味がないみたいな話があり、そういう興味がない、そもそも違いがあった時に、違
いがある人のことを気にしないというか、もう違うから、自分とは別世界みたいな
ところがあるというご意見を踏まえ、少し強めに、超えて、尊重し合えるところま
で持っていきたいというような表現で、「超える」とさせていただいた。

改めて、ここの表現をしたときの議事録を読ませていただいた上で、今のご指摘
を踏まえて検討させていただく。

（相澤委員）

全体的な話になってしまうが、赤字で「なっています」と直してある部分が多い。
一応確認だが、これは多くの人が事実だと思っているから、「なっています」とい
うふうに赤字で直しているのか。

（事務局）

前回山口委員の方からご指摘をいただいたところでもあるが、実はここの表現が
まちに「なっています」というものと、まちを「めざします」というものの2種類
があった。どちらかにすっきりさせた方がいいのではないかなというご指摘を
受け、事務局としては、ここで「なっています」としているのは、10年後、2035
年にこういうまちに「なっています」というものを目指そうということで、すべ
てのところを、「なっています」という表現で、2035年のすみだはこういうまちに
「なっています」というニュアンスが伝わるようにと思って整理した。

（相澤委員）

前回の話を少し忘れていた部分があるが、このつながりがわからないと、これは
事実なのか思ってしまう人が出てきてしまう。「はじめに」とか、この前段階の部
分で説明があると思うが。

（事務局）

読む人の視点が欠けていたかなと思うので、「なっています」というところに、なっている表現の意味が伝わるように、どこかで工夫させていただきたいと思う。

（星野委員）

私も同じ意見で、この各分野の基本的な理念を指摘する文章の中に「なっています」があるが、今の時点で、それを「めざす」という方がわかりやすいのではないかな。その方が誤解を生みにくいのではないかと感じている。

例えば 22 ページの「誰もがライフスタイルに合わせて自由に楽しめるまちになっています」、これはどこで判断しているのかと思われたら、少し嫌かと思った。各分野でもそういう表現にしてもらえれば、なお良いと思った。

（事務局）

事務局としては、基本構想で掲げる姿というのは「2035 年のすみだの姿」という前提から入っているので、それからすると 2035 年にはこういうまちに「なっています」という表現にする方が自然と考えた。

ただ先ほどからもあったように、複数の方から同じ意見いただいたので、改めて真摯に受けとめて、他のところで工夫することで、「なっています」のままで分かりやすくできるのか、「めざします」にしたほうがいいのかというところは考えさせていただきたいと思う。

（加藤会長）

言葉として未来完了形は難しいのかもしれない。

（岸委員）

第 2 章の基本目標 ・ ・ ・ とあって、それぞれ 3 つずつ、例えば、基本目標の中では、経済・産業、観光、文化芸術・スポーツと、その 3 つだが、それが例えば 12 ページ、13 ページ、14 ページというような、こういうふうにタイトルをつけて、その内容をこういうふうに表現すると、何か縦割りに見えてしまう。

例えば観光の後に課を付ければ、何か墨田区の行政の縦割りみたく見えてしまっ、私だけなのか。つまり言いたいことは、最初の「基本構想とは」というところで、絵がある。先ほど事務局の話でも、丸と丸の重なりに意味があるというような話があったと思うが、その重なりが見えてないのではないのかというのが、私の感じるところ。

もう 1 点は、第 1 章の中の 8 ページ、9 ページで、今後予想される社会の変化ということで、「必要があります」、「必要となっています」、「求められています」と、こういうふうに 8 つの項目が書いてあるが、例えばこの部分と、それから第 2 章との関係というのは、何も意図しないで、こういう文章の構成になっているのか。例えば求められていると言っているのだから、それに対する答えみたいなものを第 2 章で掲げてあるのか、ないのか。これも非常に疑問に思った。

(木村委員)

私も全く同じところ、やはり人手不足とか、今度の予算でDXがたくさん入っていると思うが、そういう技術革新というところが今話題になっていて、それをどうやって横軸で盛り込むのか、前から質問しているが、それが現状のところでは盛り込むと言っていたが、弱いなと思っていて、3章に繋がらないし、外から新しいものを受け入れるという話は、私はIT系なので、デジタルだとか、そちらをどうやって組み込むのかというのが、そこは調整し続けることに入ってくると言われても、何か腹落ち感がなくて、横軸感がない。

多分産業だけでなく、社会福祉全部そこら辺が今後、デジタル技術とか関わってくるはずだけど、何か全体読んでも、横軸ではないという感じに思っている。

(山本委員)

岸委員がおっしゃったことは、とても重要なこと。基本構想は墨田区政をこれから実施していく時の、それぞれの分野で具体化していく方向を示すことだけでも、やはり、基本構想が目指しているのはビジョン。

だから、地域として墨田区をこれからどう創っていくのかというビジョンの総体をそれぞれの面から見た、つまり観光の方から見ていく、産業から見ていく、基盤から見ていくということであるので、「分野別」という表現が少し誤解を生じてしまうと思っている。

この1ページ目にあるのは、それぞれの分野を重ねるところ重要であって、それでは重なっている部分は、それぞれの分野に相乗効果があるということになる。これもワードと図表の表現力、まさにデザイン力、ワード力が問われるところ。少なくとも今までの役所で使っていた言葉を言い換える必要がある。この策定プロセスは確かに、3部会に分かれてやってきたが、今日の会議のように一緒にしていくという作業なので、そこをうまく作る。

それと10年後の2035年まだ道半ばだと思うが、その時点までのゴールを設定しておいて、そのゴールまでにどうしていくのか、そのフィロソフィーというものが「はじめに」の部分に、ポエムみたいな形で書かれているけれども、それが的確に伝わるように、やはり何か注釈はあった方が良かったと思った。

(角山委員)

先ほどから、やはり横串をという話がずっと出ているわけだけれども、なかなか横串を刺すような形での表現・表記というのは難しいのだろうと思っている。先ほどの8ページと9ページのところの、今後予想される社会の変化というところに、例えば「高齢者人口の増加」のタイトルに矢印を入れて、他のページの関連している事項をここに並べていくというような形にすると、横串を刺しているようには見えてくるのではないかな。どこが、ここに関連しているのかという点では、はっきりしてくるのではないかなというふうに、今聞いていて思った。

(山口委員)

そもそも分野を入れないといけないのか。例えば、「つながりで地域のしあわせを育むまち」に「福祉」と頭に入っているが、なくてもワードから読み取って、福

社とを感じる人もいれば、まちづくりとを感じる人もいて、産業とを感じる人も一定いるのではないかという気がしている。それだと問題があるのかというのが気になっている。

（事務局）

きちんと行政としても、また、まちの皆さんと一緒に、これからまちを創っていくという中で、余りにも抽象的な形で表現をしてしまうと、逆に役割が分からなくなってしまうところがあるので、一定の括りというものを見せながら書いていくことが、分かりやすさに繋がるのではないかと考えているところがまずある。

また8ページ、9ページのところについて、こちらで「必要となっています」、「求められています」というのは、やはり、これからの社会の課題という風に、特に墨田区に限らず日本全体で起きてくる課題というところを載せさせていただいている。これが一対一で、それぞれの分野と対応するというものでも決してないし、おそらく課題を踏まえたときに、その上で墨田区というのは、こういうまちを「目指します」、こういうまちに「なっています」というものを、我々としては掲げていきたい。

先ほどあったような具体的な取組というものは、行政からすると基本計画という、この基本構想を踏まえて作るべき計画の中で位置付けていくものであって、また、それぞれの地域の住民の方々、また事業者の方々は、こういった社会の課題であるとか、区として目指すべきまちの姿というものを踏まえたときに、では私たちはこういう行動しようというものにつながっていく形にできればと思っている。

今様々にいただいたご意見を、どう反映させるかというのは事務局としてもなかなか難しいと感じている。

（加藤会長）

今のいただいた意見、簡単に要約すると8ページと、それからもう分野別未来像の関係性、それからこの分野別という表現と、それから最初の全体の構成の中の、この重なり部分どうするかというところだと思う。例えば構成として、「今後予想される社会の変化」はここに必要なのか。これは最後に持って行って、どなたか今おっしゃったけど、各項目がこの分野別未来像のどこと繋がっているのかということを示明することで、こういった課題については、基本的な分野別未来像で解消することができないか。

それから1ページの、このつながりのところについては、なかなか横串を見せるのは難しいが、例えばもう1枚加えて、この3分野がどういうふうに繋がっているのかという、そういうようなところを見せる文章というか、そういった説明を一つ入れていくというのも、一つの手かなと思う。委員の皆様からそういうご意見いただいて、そこら辺は少し検討していただきたいと思う。

（上野委員）

やはり分野ごとに分け過ぎていて、これができると、経済・産業のところは、産業観光課が出すみたいない感じで、どうしても見えてしまうと思う。

こうなるにしても、それぞれが、山本委員がおっしゃったように、重なるという

キーワードをもう少しいろいろ使ってもいいのではないかなと思った。

基本目標 のコミュニティのところ、コミュニティが重なるというようなワードは1個入っているが、先ほどの3つの丸のところも、それぞれが重なっていることが大事というような話もあったし、この中にある、それぞれの分野ごとの丸も本来は重なっている部分があるということだと思う。何かそういうことを少し前の方に入れ込んだらどうかという意見。

(事務局)

今のご意見を踏まえて、冒頭の「基本構想とは」のところを工夫する中で、ニュアンスを盛り込めないかというところは整理させていただければと思う。

「分野別」というような言葉であるとか、それぞれがあまりにも孤立しているという感じが伝わらないように、イメージ図だけではなくて、文章を入れることも想定して調整させていただければと思う。

(平林委員)

「分野別」というワードがすごく引っかかるのではないかなということなので、第2章の「分野別未来像」のタイトルを改めてもいいのではないかな。

例えば、「基本目標や未来像」にしてしまうと、何か分野に引っ張られないような、そういう表現にするのが一つあるのかなと思った。

(事務局)

「分野別未来像」というところの表現については改めて検討させていただく。

(阿部委員)

今後予想される社会の変化をせっかくここで挙げているので、先生がおっしゃられたこの分野別というのは、違うイメージを持たせてしまうので、せっかく未来像が、予想される社会の変化を踏まえてであれば、例えば「課題ごと未来像」とか、とにかく分野は絶対止めたほうがいいと思う。別というのも止めたほうが良くて、部署別フロアごと課題みたいになってしまう。こういう変化が予想されるので、課題を解決していくのに、こうした方がいいのではないかなというのはもう少し伝わったほうがいいのかと思う。「未来像」という言葉はいいと思う。

(山本委員)

一般的な基本構想の構成は、昔から人口動態や、社会の変化を最初に示している。地方自治法に基づく策定だが、墨田区はその構成をやめませんか。2章構成でも5章構成でも良いが、やっぱり大事なのが未来像。皆さんが議論を重ねてきて、ここまでワードを持ってきた。私はやはり、2035年の「すみだの総体」というものを、こう書いているのであれば、それを「どこから、どう見たら、こういうふうに見える」ということを、みんなで合わせていこうというスタイルで表現すれば良いと思う。

墨田区は、オリジナルな基本構想を策定するのであれば、構成を変えたからといって国から怒られるという時代ではないので、時間も限られているが、編集を少し

試みていただけると良いと思っている。

（加藤会長）

将来像についての大事な議論がもう一つ残っている。次の議題に移らせていただければと思う。決してここで打ち切りということではなく、ご意見等あったら、改めてメール等でいただく機会を設けさせていただければと思っている。

まちの将来像のキャッチフレーズについて議論するにあたって、将来像の考え方についても、この審議会の中で議論をさせていただきたいと思うので、事務局の方から説明をいただきたい。

（３）将来像について

事務局から資料３及び４について説明を行った。

以下、質疑応答

（加藤会長）

将来像に込めた思いやキャッチフレーズ案も事務局よりご提示いただいた。

複数提示されたキャッチフレーズの案については、それぞれ好みに分かれる、いきなりこれが良いと決めるのは難しいと思うので、まず審議会として、将来像に込める思いについての方向性を定めることが重要で、その後キャッチフレーズの言葉を検討していくのがよろしいかと思う。

資料の２ページから３ページ目に、キャッチフレーズのポイントや、将来像に込めた細かい思いが記載されているが、この点を踏まえて、ご自由にご意見をいただきたい。将来像にはこういう思いを込めたいというご意見をいただいた上で、今後この将来像というのを改めて作っていくという風に事務局から伺っているので、そのような形でご議論をいただければと思う。

非常に難しい話ではあるが、意見等いただければ、こういったフレーズを入れるべき、或いは平成１７年に作った将来像から変えないということも含めて、議論いただければと思う。

（山口委員）

５番目のスライドのパネル展示に関する人気投票で、１位が次世代を育むは結構意外と思ったが、これはどういう理由で、これが出たみたいなデータはあるか。

（事務局）

投票数が集まった理由について具体的な分析をしていないが、区役所１階や、すみだまつり・こどもまつりが錦糸公園で実施された際にブース出展をして、投票いただいたものがこちらになっている。

本当に様々な年代の方が集まっていた中で、おそらく今、社会全体として子育て、こどもまんなかみたいなものも掲げられているけれども、そういう社会の世相を反映した結果になったと受け止めている。

（山口委員）

こういうものが1番に来るのであれば、事務局案の中だと、「夢をカタチにできる」みたいなところがいいのかと思う。

この23区のリストを見ると結構絶望感があるというか、何を言っているのか全く分からないことばかり。渋谷区は比較的「違いを力に変える」というのは渋谷のビジョンと割と合っているのかと思う。並べ替えても、どこのものか分からないようなものが多いという気がしていて、そういう意味で言うと本当に、「夢をカタチにできる」とかもそうだけど、あと「個性」とかという言葉もあんまり他の区が使ってなさそうなので、そこら辺の言葉が使えると、墨田区らしさというか、墨田区は他の区と違うというところを少し示せるのではないかという気がしている。

(駒村委員)

報告書も含めてだが、いろいろな人が手を加えていくと、どんどん個性がなくなっていったって、誰が書いても同じような言葉になってしまう。各区のこれを見ても、どこがどこか全く分からない。組み替えたとしても、何か分からない。

2ページの将来像のキャッチフレーズのところだが、すみだと名乗らなくても、すみだだろうという、少し尖った個性が残った方がいいと思う。いろいろな人がいろいろなこと言って、どんどん個性を抜こうとするが、やはり個性を際立たせるような形にしてもらいたい。

1個1個評価するのもあれだけれども、1番目は、すみだと書かなくても、どこだって成立してしまう話だし、4番目だって成立してしまう話。5番目はダジャレで、少し尖っているけれども、10年先まで愛せるかというとは分からない。2番目とか3番目とか辛うじて、想像できるかと思うが、すみだらしい個性で尖った感じでもいいのではないかと思う。

(阿部委員)

キーワードで「夢」だけは何とか残してもらいたい。山口委員おっしゃったけど、絶望感があるこの中に「夢」って一つもない。というのは、今の山本区長が「夢」という言葉を使い始めた時に、行政の中では相当違和感があったと思う。夢、行政はやらないからみたいな感じで。

いち区民とすると、夢はすごく重要で、若い人たちにとっても、将来のこともそうだし、一定の年齢をいったとしても夢を諦めずに、最後まで頑張ればいいわけ。そういう意味では他の言葉は、いろいろ皆さんに工夫はしていただきながら、あえてすみだらしさという意味では、「夢」という言葉を残してもらえると、少なくともすみだらしくいけるのではないかという気がする。

(木村委員)

私もいろんなコミュニティに入ったり、ボランティアでいろいろ手伝いさせていただいている中で、墨田区すごいなと思うのが、赤ちゃんからお年寄りまで、いろんなイベントだったりとか、新しいことをやられているまちだなと。ついこの間も墨田OLバンドという、それを企画した人も初めてイベントをやったけども、そういう意味で5番の「夢をカタチにできるまち」というのはすごくフィットする。どんな年齢でも考えられる。フィットするけど、もう少し言葉足したい。夢を追い、

思いを支えるまち。夢だけでなく、もう少し中立的な、お年寄りの中で、例えばお友達を増やしたいとか、それぐらいのことでもできそうなイメージの言葉も入ると面白いかと。つながりというのが結構多かったので、基本目標とか、そこら辺のワードも加えると、夢を追い、新しいことと、あと思いやりの心的部分のワードが入ると、墨田区らしいのかと思った。

（佐久間委員）

将来像に込めたイメージとして、すみだは歴史があるというところで、それも誇りのある歴史というところで、誇りある歴史がありつつ、未来に向かって進んでいるという、そんなイメージが出るといいのかと思っている。2番目もいいが、先ほど意見あった、夢というワード、これもキーワードかと思った。

（相澤委員）

こういうのは、やはりシンプルな、わかりやすいのがいいのかと思ったので、1番目が挙げていただいたものの中ではよかったと思った。

6番目の「OasiSumida」だと、「地産地商」を使いたいということになってくると、ダジャレとダジャレ。

あと、いろいろアイデアを皆さんで話し合うのもいいが、最近だとA I、キーワード言って、今軽く調べたけども、いくつかよかったと思ったのが、「夢をつむぐ歴史と文化が息づくすみだ」だったり、あとは「夢を育む未来が咲くすみだ」、未来が咲くは桜にも関わっていて良いと思った。なので、参考に後でA Iに聞くのもいいかと。

（加藤会長）

逆にA Iが出てこないことを考えるのもいい。

（相澤委員）

それもあると思う。

（井上委員）

話を聞いていると、多分どちらかに分かれるのかなと思っていて、ある程度尖って決めてしまうのか、もう他の区を見てもありきたりの言葉なので、ありきたりの言葉でまとめて、結局、他の区から来てもすみだはあまり変わらないとなって、そういう風にもっていくのか、この委員の皆さんで、どちらへもっていくのか、方向性は決めた方がいいのかと思う。

もし、ありふれた方でいくのであれば、少なくともこのまちづくりの基本理念のこの黒ポチ、「人」が主役であること、「つながり」を活かすこと、「まちの個性」を磨き続けること、に引っかけられないと、そもそものキャッチフレーズにならないという気はする。

尖るのであれば全然関係ないかと思うけども、その辺を決めないと多分、どんなに頑張っても、最後A Iでいいというふうになるぐらいの言葉しか出ないのではないかという気はする。

(加藤会長)

今日お話をしている、尖る・尖らないを決める、どこまでやればいいか。

(事務局)

次回できれば一つにした上で、これでいかがかという風にしたいと思っていて、その時にこれは全然違うだろうと、完全に、ちゃぶ台をひっくり返されるようなことにはならない方がいいと思っている。

なので、まず方向性として、分かりやすいというか、尖った言葉にするか、それとも他のところにもあるような、ありふれた言葉にするかというのが1点。

もう1つが、すごく充実した言葉を並べるか、言葉を短くシンプルにするかというところもいただきたいと思っている。

すべての要素を込めていくと、おそらく長くなりすぎて、だんだん覚えられない言葉になっていくと思っているので、覚えやすさで言うと、短い方がいいのかと思っている。皆さんの意見それぞれ多分あると思うので、全部の意見を込めると長くなってしまう。そこをどちらにするかというところを整理させていただきたいと思っている。

(上野副会長)

少し離れてしまうかもしれないが、墨田区のコミュニケーションマークというか、「人つながる墨田区」というのがある。私はすごく良いと思っていて、すみだを一言で表して良いロゴだと思っているが、前に、事務局に聞いたら、あのロゴは例えば議会で議決をとったとか、未来永劫変えないようにしようとか、そういうことではないものらしい。前回の基本構想の後にできているもので、もしあれが、これからも大事にするすみだのマークであれば、今回の基本構想の表紙にも、人つながる墨田区というのがある、そこから何かワードがつながるという考えも、もしかするとあるのかと思った。

(加藤会長)

今までの話の流れだと、少し尖った方にするのか、そうでないのか、短くするのか、そうでないのか、そこら辺を決めるということだが、あまり多数決をとるような性格のものでもないので、議論いただければと思う。

また今のすばらしいご提案もあったけども、まずはお話をいただいた上で、事務局の方で判断いただくということにさせていただければと思うので、残った時間ご自由にご意見をいただければと思う。

(木村委員)

現状のすみだではなく、10年後のありたい姿、だからビジョンと思っていて、初回の時に、最後にそれをまとめるとおっしゃっていたので、何か尖る、尖らないにしる、全体のこの議論の中で一番、10年後、こうありたいという言葉を入れたと思ったときに、10年後おそらく、もっとマンションが増えて、人のつながりが希薄化していき、犯罪も増えていきという社会があった時に、多分、この人のつ

ながりというところを 10 年後も大切にしていいたいというのは多分思いだったのではないかと思っていて、それはどこのキャッチフレーズかわからないが。

組子紋様も結構好き。逆に言うと、「ほっと！ずっと！！すみだ」はそういうイメージ入ってこないと思った。

（金谷委員）

資料 4 の方に、各区の基本構想キャッチフレーズ設定は誰かどこが使っても同じようなものでないかと仰っていたけれども、最良目かもしれないが、水と歴史のハーモニーはなかなかよかった気がする。何か墨田区っぽい、ちゃんと水と歴史が入っていて、これはよかったと 20 年経って思う。だけど、「ほっと！ずっと！！すみだ」はすごいキャッチーで好き。

やはりどこもそんなにキャッチーではないのにまとまっているというのは、そう簡単ではないのだろうという気はする。

あとワークショップで出している言葉というのが、1 位から 5 位まで見ると、かなり安全とか、例えば私の感覚なのかもしれないけども、災害とかそういったものに対してすごい危機感を持っているのではないかというふうに思う。それはなぜかという、やはり関東大震災から 100 年経って、結構あちこちでいろんなことが起こっているとか、この 20 年間実際に起こっている。

その 10 年後にどうなるかというよりも、これから 10 年間に多分起こるだろうという、みんどこか心の中でそう思い始めているのではないか。負のイメージをキャッチコピーにするというのは、なかなか難しいかもしれないけども、やはりそういう気持ちを汲み取って、安全で継続していけるというようなニュアンスをワンフレーズ入れればカッコいいけども、それを手堅くすみだっぽくまとまるといい。

（平林委員）

先ほどの基本理念に沿ってという話で、私もそういう風に思っている。ここの議論って結構人情とか、人とかというところですときて、基本理念のところで見ても、人が主役とか、つながりに、互助とかというところで、人と人とのつながりみたいなものもあるし、歴史と文化というところも、人がこれまで紡いできたということもあったりするというのは、あと区の方でも大事にしている人のつながりというものもあるし、この間のアド街ック天国見ても、いろんなところからも、そういう歴史と伝統と下町人情みたいなところ、それがすごく全国的に評価されているところもあったりするので、ここの区民の方たちの意見とかも踏まえて、やはりその人と人とのつながりは、何となく外せないというイメージがある。

（加藤会長）

この件について、もしまた何かあれば、ご意見をいただけるような機会を作りたいと思っている。

（事務局）

この 1 ヶ月の中でまとめさせていただきたい。何となく本当にすみだらしいとい

	うのが、もしかすると平易な表現になるかもしれないが、その表現の中にすみだらしさというものが伝わる、そういった表現を工夫して検討させていただければと思っている。 (加藤会長) 本日はこれをもってすべての議題を終了ということにさせていただければと思う。 2 事務局からの連絡事項 事務局から次回の日程等について、説明を行った。 3 閉会挨拶 企画経営室長から挨拶があった。
所 管 課	企画経営室政策担当（内線 3 7 2 2）